

# 平成28年度 地方創生加速化交付金事業 及び 地方創生推進交付金事業 効果検証資料

## ○地方創生加速化交付金事業一覧

No.	交付金対象事業の名称	担当部課名
1	◆稼ぐ地域が人を呼ぶ！移住地としての『とうおん』ブランド創生事業	総務部 企画財政課
2	◆東温市の強みを活かしたオール東温による とうおん魅力創生事業	産業建設部 産業創出課

## ○地方創生推進交付金事業一覧

No.	交付金対象事業の名称	担当部課名
3	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	総務部 企画財政課
4	◆瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業□ ～更なる観光戦略の深化と地域連携（東温市、砥部町）による活性化事業～	産業建設部 産業創出課

## <効果検証>

会議名：第6回東温市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

開催日：平成29年7月21日（金）13:30～

開催場所：東温市役所 大会議室

平成28年度 地方創生加速化交付金事業 (平成27年度3月補正予算)

(単位:千円)

No.	交付金対象事業の名称		事業概要・目的					
1	◆稼ぐ地域が人を呼ぶ! 移住地としての『とうおん』ブランド創生事業		本市の中山間地域では少子高齢化による人口減少によって、担い手不足に歯止めがかかっておらず、住民が生きがいをもちて暮らし続けられる「住みたくなる地域づくり」が急務となっている。 このため、中山間地域の重点地区(地域の維持・活性化に取り組む地区)において、地域運営組織を形成し、その組織が中心となって「移住定住の促進」や「担い手の誘致・育成」、「地域特性を活かした新産業の創出」を図り、自立した経済循環の仕組みを持つ、持続可能な地域社会づくりを進める。					
	事業開始	事業終期						
	平成28年4月	平成29年3月						
実施事業名			総事業費	交付金対象経費	財源内訳		具体的事業番号	資料ページ
					加速化交付金	一般財源		
1	移住地としての『とうおん』ブランド創生事業		23,025	22,973	22,973	52	No.27・42	P5
2	移住・就業体験事業		26,453	26,453	26,453	0	No.29	P6
3	農林業体験活動支援事業		1,465	1,465	1,465	0	No.31	P7
4	定住支援事業		999	998	998	1	No.35	P8
5	頑張る中山間地域等支援事業		8,800	8,780	8,780	20	No.80	P9
合計			60,742	60,669	60,669	73		

本事業における重要業績評価指標(KPI)

指標	指標値	目標年月	指標値(数年後)	目標年月
指標1 移住定住促進協議会の設立 移住定住促進マスタープランの策定	市を知っている県外者の割合 33%(現状値:31.75%) (ネット調査、大阪、岡山、広島、香川、サンプル400件)	H29年3月	市を知っている県外者の割合 40% (ネット調査、大阪、岡山、広島、香川、サンプル400件)	H32年3月
指標2 地域運営組織の設立	運営組織の組織化4件(現状:0件) 運営組織の法人化0件(現状:0件) 新産業の事業化0件(現状:0件)	H29年3月	運営組織の法人化2件 新産業の事業化2件	H32年3月
指標3 移住就業体験・農林業体験の実施	体験者数30名/1年(現状値:0名) 体験を通じた転入者数3名/1年 (現状値:0名)	H29年3月	体験者数300名/5年 体験を通じた転入者数30名/5年	H32年3月
指標4 地域通貨制度の創設	制度創設(現状値:なし) 活用登録者0名(現状値:0名)	H29年3月	活用登録者50名	H32年3月

本事業終了時における実績値

指標	実績値	年月	事業効果	今後の方針
指標1 移住定住促進協議会の設立 移住定住促進マスタープランの策定	協議会設立 マスタープラン策定 調査は29年度に実施予定	H29年3月	地方創生に非常に効果があった	追加等変更し、発展させる
指標2 地域運営組織の設立	運営組織の組織化 4件 運営組織の法人化 0件 新産業の事業化 0件	H29年3月	地方創生に効果があった	事業の継続
指標3 移住就業体験・農林業体験の実施	体験者数 895名 体験を通じた転入者数 6名	H29年3月	地方創生に一部効果がみられた	事業内容の見直し(改善)
指標4 地域通貨制度の創設	制度検討中	H29年3月	地方創生に効果がなかった	事業の中止

評価者(総合戦略会議委員)からのコメント

地域運営組織(4地区)の事業に対する支援が、他の事業(地域おこし協力隊)と連携して効果的に働いている。  
地域通貨制度については、福祉や健康づくり等の分野との連携をさせていく方向で組み直すことも検討する。

平成28年度 地方創生加速化交付金事業 (平成27年度3月補正予算)

(単位:千円)

No.	交付金対象事業の名称	事業概要・目的
2	◆東温市の強みを活かしたオール東温による とうおん魅力創生事業	市内企業の99.9%が中小零細企業である本市においては、今後進展する人口減少による市場縮小の影響を受けやすく、長期的に安定した雇用を維持していくための施策を推進する必要があるため、市内の中小零細企業の独自技術や新製品の開発余力等、今後の事業展開を考える上で必要な現状や課題等の調査・分析を行う。 また、市、医学部を中心とした愛媛大学及び市内中小零細企業等の連携により「東温市健康医療創生研究会」を設置し、新たな市場ニーズ、地域資源及び市内企業の生産技術等の基礎データを分析し、『ものづくり産業の創生』として、事業化可能な製品やサービスの検討、『ヘルスケア産業の創生』として地域資源等を有効に活用した体験型ヘルスツーリズムなどのメニュー開発などの事業化を支援する。
	事業開始	事業終期
	平成28年4月	平成29年3月

	実施事業名	総事業費	交付金対象経費	財源内訳		具体的 事業番号	資料 ページ
				加速化交付金	一般財源		
1	中小零細企業現状把握調査事業	4,826	4,680	4,680	146	No.12	P10
2	とうおん健康医療創生事業	1,737	1,660	1,660	77	No.18	P11
合計		6,563	6,340	6,340	223		

本事業における重要業績評価指標(KPI)					
指標	指標値	目標年月	指標値(数年後)	目標年月	
指標1	中小零細企業現状把握調査の実施	事業所現状把握率 75% (現状値:なし)	H29年3月	事業所現状把握率 75%	H32年3月
指標2	中小零細企業現状把握調査の施策への反映数	現状把握後の施策への反映数 0件	H29年3月	現状把握後の施策への反映数 10件	H32年3月
指標3	ヘルスケア産業の創出	愛媛大学医学部との共同事業数 3件(現状値:なし)	H29年3月	愛媛大学医学部との共同事業数 5件	H32年3月

本事業終了時における実績値			
指標	実績値	年月	
指標1	中小零細企業現状把握調査の実施	事業所現状把握率 84.7%	H29年3月
指標2	中小零細企業現状把握調査の施策への反映数	現状把握後の施策への反映数 0件	H29年3月
指標3	ヘルスケア産業の創出	愛媛大学医学部との共同事業数 1件	H29年3月

事業効果	今後の方針
地方創生に非常に効果があった	追加等変更し、発展させる
地方創生に効果があった	事業の継続
地方創生に一部効果がみられた	事業内容の見直し(改善)
地方創生に効果がなかった	事業の中止

評価者(総合戦略会議委員)からのコメント
調査を元に、事業者の声を拾い上げ、ユニークでなおかつ効果的な支援策を検討してほしい。

平成28年度 地方創生推進交付金事業 (平成28年度12月補正予算)

(単位:千円)

No.	交付金対象事業の名称	事業概要・目的					
3	◆“奇跡の劇場”が世界を変える！ アート・ヴィレッジ「とうおん」創生事業	市内に立地する中四国唯一の常設型劇場「坊っちゃん劇場」を核としながら多角的なアプローチを行い、市を「舞台芸術の聖地」としてブランド化することで芸術関連人材の移住・活躍をきっかけとした交流人口の拡大や観光関連産業・周辺産業での市内経済の活性化を図るとともに、演劇関連の「仕事」と「学びの場」の創出を目指す。平成28年度から3ヶ年計画で、坊っちゃん劇場が立地する商業施設敷地を中心としつつ、市内全域を舞台として、「創造発信の拠点」、「国際的な文化・観光交流の拠点」、「ひとつくり・まちづくりの活動拠点」の三つをコンセプトとするアート・ヴィレッジ「とうおん」構想を推進する。					
	事業開始	事業終期					
	平成28年12月	平成29年3月					
実施事業名		総事業費	交付金対象経費	財源内訳		具体的事業番号	資料ページ
				推進交付金	一般財源		
1	アート・ヴィレッジとうおん創生事業	8,579	8,354	4,177	4,402	No.43	P12
合 計		8,579	8,354	4,177	4,402		

本事業における重要業績評価指標 (KPI)							
指標	指標値	目標年月	指標値	目標年月	指標値	目標年月	
指標 1	演劇関連産業への従事や演劇技術の修得、研鑽等を目的とした移住者数(家族を含む)	3人/年	H29年3月	20人/年	H30年3月	20人/年	H31年3月
指標 2	レスパシティ(坊っちゃん劇場が所在する商業施設)の入場者数(現状値:過去3年間の平均値 3,430,000人)	5,000人増/年	H29年3月	20,000人増/年	H30年3月	20,000人増/年	H31年3月
指標 3	坊っちゃん劇場観劇者数(現状値:過去3年間の平均値 72,919人)	1,000人増/年	H29年3月	2,000人増/年	H30年3月	3,000人増/年	H31年3月

本事業終了時における実績値			
指標	実績値	目標年月	
指標 1	演劇関連産業への従事や演劇技術の修得、研鑽等を目的とした移住者数(家族を含む)	3人/年	H29年3月
指標 2	レスパシティ(坊っちゃん劇場が所在する商業施設)の入場者数	13,000人増/年	H29年3月
指標 3	坊っちゃん劇場観劇者数	8,864人増/年	H29年3月

事業効果	今後の方針
地方創生に非常に効果があった	追加等変更し、発展させる
地方創生に効果があった	事業の継続
地方創生に一部効果がみられた	事業内容の見直し(改善)
地方創生に効果がなかった	事業の中止

評価者(総合戦略会議委員)からのコメント  
 それぞれの事業の成果が積み重なってきていることは実感している。最終成果として「人口がどうなったか？」という部分を将来的に数値として示してもらいたい。

平成28年度 地方創生推進交付金事業 (平成28年度当初予算)

(単位:千円)

No.	交付金対象事業の名称	事業概要・目的
4	◆瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業 ～更なる観光戦略の深化と地域連携 (東温市、砥部町)による活性化事業～	今後進む人口減少社会の中では、地域活力を低下させることなく、松山圏域の多様な1次・2次産品や「道後温泉」「松山城」といった観光需要をうまく取り込むことが地域の活性化につながるため、観光交流人口の拡大を図り、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに、地域密着型の観光地域づくりが必要となっている。 松山市が「広域観光連携推進協議会」を構成する東温市、砥部町で連携して連携エリアを拡大し、松山の先につながる観光周遊ルートの構築、「温泉」、「浴衣(着物)」、「俳句・文学」、「日本酒」、「四国遍路」「自然」「忽那諸島」などをテーマに、瀬戸内エリアや近隣市町の観光素材をつなぎ合わせた、テーマ型広域エリア周遊旅行商品の造成などに取り組み、交流人口の拡大や地域経済の活性化を図る。
	事業開始	事業終期
	平成28年4月	平成33年3月

実施事業名	総事業費	交付金対象経費	財源内訳		具体的事業番号	資料ページ
			推進交付金	一般財源		
1 瀬戸内・松山観光ビジネス戦略事業	690	690	345	345	No.83	P13
合計	690	690	345	345		

本事業における重要業績評価指標(KPI)						
指標	指標値	目標年月	指標値	目標年月	指標値	目標年月
指標1 松山市の観光入込客数 (現状値:580万人)	10万人増/年	H29年3月	10万人増/年	H30年3月	維持	H31年3月
指標2 松山市の外国人観光客延べ宿泊者数 (現状値:13万人)	2万人増/年	H29年3月	2万人増/年	H30年3月	3万人増/年	H31年3月

本事業終了時における実績値		
指標	実績値	目標年月
指標1 松山市の観光入込客数	2万7千9百人増/年	H29年3月
指標2 松山市の外国人観光客延べ宿泊者数	5万7千500人増/年	H29年3月

事業効果	今後の方針
地方創生に非常に効果があった	追加等変更し、発展させる
地方創生に効果があった	事業の継続
地方創生に一部効果がみられた	事業内容の見直し(改善)
地方創生に効果がなかった	事業の中止

評価者(総合戦略会議委員)からのコメント
特段意見なし